

# 佐那河内村における

# すだち生産と

# 持続可能な農業

佐那河内村の人口は約2100人、

就業者のうち農業で働く人が40%という農業中心の村。

その割合は徳島県内で最も高く、西日本の全市町村でも五指に入る高さ。

園瀬川沿いの谷と傾斜地にはのどかな棚田や果樹園が広がっています。

昭和56年の寒冷害以降、みかんからすだちへの転換が進められ、

隣の神山町と並ぶすだちの産地へ成長しました。

阿波学会地理班では、2001年にすだち生産の調査をおこない、

現在は持続可能な農業をテーマに新たな特産品について取材中です。

徳島のすだちの歴史を知り地域農業の可能性を考えます。

佐那河内村学術講演会

令和6年 土曜  
9.28

10:00~12:00 (終了予定)

参加無料 佐那河内村役場 (村民ホール)



講師 豊田 哲也  
とよだ てつや

徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授

1963年 奈良県生まれ。

京都大学文学部、同研究科を修了。京都大学大学院人間・環境学研究科助手を経て、

1997年 徳島大学総合科学部に着任。専門は人文地理学、地域政策論。

研究テーマは、都市システムと都市圏の空間構造、

日本の地域格差と人口移動、地域経済のサステナビリティなど。

中四国都市学会会長、日本学術会議連携会員(地域研究)、

四国地方整備局四国圏広域地方計画有識者懇談会委員、

徳島大学副理事(地域連携担当)。

■主催：佐那河内村

■後援：阿波学会

お問い合わせ 企画政策課 TEL 088-679-2973



さち香る 風の谷

